

C O₂排出削減や温暖化防止効果



地中熱・地下水熱を活用した空調設備
の説明をする担当者＝袋井市国本で

地中熱活用の空調設備

袋井の工場 国内最大級導入

生活・産業資材などの販売を手がけるイノベックス（本社・東京）のダイオ袋井工場（袋井市国本）に地中熱を利用したものとしては国内最大級の空調システムが導入され、完成披露会が行われた。

（牧田幸夫）

イノベックスは昨年、再生可能エネルギーである地中熱事業に本格参入。地中熱と地下水熱を組み合わせた独自技術「ヒートクラスター方式」を採用した空調設備は、関東を中心に病院や高齢者施設、農業ハウスなど複数の施工実績があるという。

地下自研の地中熱・地下水熱は、一年を通して一五～一八度と安定し、夏は涼しく冬は暖かいのが特徴。これを空調に活用することで、大幅な省エネルギー化と二酸化炭素（CO₂）の排出削減を実現。ヒートアイランド現象の抑制にもつながるとしている。

ダイオ袋井工場は従業員九十人で、網戸張り替え用ネットや防草シートなどを製造。約五千平方メートルに及ぶ空調は、これまで重油を燃やして稼働させていたが、設備の更新時期を迎えたのを機に地中熱システムに切り替えた。担当者は「猛暑時の過酷な労働環境も、今夏は改善されている」と説明した。

県内では浜松市内の農業ハウスが四月に導入し、収穫量アップが期待されるという。浅見昌之社長は「地球温暖化防止はもとより、ランニングコストの削減や事業価値の向上にも貢献できる。施設園芸の盛んな地域なので、受注拡大へPRしていきたい」と話した。